

ところ会 6 月 OP 行事案内

川越市立博物館と川越の新河岸川を歩く

6 月オプション行事として川越市立博物館と川越地区の新河岸川を歩いてみる企画を立案しました。

記

- 日 時：平成 29 年 6 月 29 日（木） 雨天順延
- 集合場所：西武新宿線 本川越駅改札口前
- 集合時間：9 時 15 分（所沢 8:51 発⇒本川越 9:12 着に乗車ください）
- 見学場所及び時間：
 - 本川越駅出発（9：20）⇒赤間川公園⇒濯紫公園⇒河越夜戦跡（東明寺）
 - ⇒田谷堰⇒川越氷川神社⇒昼食（12:15～13:15）⇒川越市立博物館（13:30～14：30）⇒川越城本丸御殿（14：35～15：05）⇒三芳野神社⇒川越城富士見櫓跡⇒本川越駅 16：15（解散）
- 昼食：川越野草庵（川越市城下町 27-1）
 - 選べる彩 昼御膳 1,390～1540 円（税抜き）
 - （詳細は案内メールを参照してください）
- 見学先簡単ガイド（各種ホームページから）

□赤間川公園（あかまがわこうえん）

新河岸川の川辺にある公園。パンダ公園と呼ばれることもある。



□濯紫公園（たくしこうえん）

濯紫公園（たくしこうえん）は、埼玉県川越市喜多町の西端にある、昔『濯紫園（たくしえん）』と呼ばれる庭園があった場所を新河岸川と合わせた親水拠点として整備した公園です。

園内は、新河岸川沿いを歩くことのできる、公園入口の石段から川に沿って遊歩道が整備しており、地域の人々がちょっとした散歩などに利用しています。

また、公園奥側は少し丘の様な部分があり、



小さな子供向けの遊具なども揃っています。

藤棚やベンチなどもありますので、ちょっとした休憩に便利な公園です。

□河越夜戦跡(東明寺)

・川越夜戦(河越夜戦)について

天文6年(1537)の戦いで北条氏綱(うじつな)に川越城を奪われた扇谷(おうぎがやつ)上杉朝定(ともさだ)は、再びこれを奪還すべく山内上杉憲政、古河晴氏と連合して約80,000の大軍をもって、天文14年(1545)10月に川越城を包囲しました。



これに対して、半年あまり籠城しひたすら防戦に努めていた川越城将・北条綱成は、翌天文15年(1546)4月20日の夜、小田原から来援した北条氏康(うじやす)の約8,000の兵と呼応し、約3,000の城兵を率いて出撃し連合軍を壊滅させました。



圧倒的な数を誇る連合軍を少数の兵力で撃滅したこの夜戦は、日本三大奇襲(日本三大夜戦)の一つとして有名なものとなっています。なお、この戦いの際、扇谷上杉朝定は討死し、これを境に北条氏は関東地方に一大勢力を樹立するに至りました。

・東明寺について

埼玉県川越市の志多町にある東明寺(とうみょうじ)は、稲荷山(いなりさん)称名院(しょうみょういん)と号し、一遍上人の開基による時宗(じしゅう：浄土教の一宗派)の寺です。本尊は慈覚大師作の虚空蔵菩薩(こくうぞうぼさつ)。



□田谷堰(たやぜき)

新河岸川(かつての赤間川)に今尚かかる、なんともレトロで味のある橋(堰)。その名は「田谷堰(たやぜき)」。

田谷堰は、川の付け替え工事の際に建造された取水堰です。河川改修によって農業用水として使われていた旧赤間川の水量が減ってしまい、水量確保のためにつくられました。堰の上段に登り、木製ゲートを降ろすことにより川をせき止める仕掛けになっています。



また、ここ田谷堰を最上流として、約1Kmごとの間隔で城下堰、小仙波堰、滝下堰の計4基が建造されまいたが、現存するのは田谷堰のみとなっています。

□氷川神社（川越）

氷川神社（ひかわじんじゃ）は、埼玉県川越市宮下町にある神社。太田道灌以来、川越の総鎮守とされ歴代川越藩主の篤い崇敬を受けた。

関東三大まつりで国の重要無形民俗文化財である川越祭り（川越氷川祭）は元々氷川神社の例大祭である。

祭神：素戔鳴尊・奇稻田姫命・大己貴命・脚摩乳命・手摩乳命。2組の夫婦神が鎮座していることから古くから縁結びの神として信仰されている。毎朝8時より、持っている良縁に恵まれるといわれる本殿の小石を縫製した縁結び玉が20体配られるため、早朝から行列が絶えない。七夕を含む夏には天の川に想いが届くよう江戸風鈴に願いが書かれた短冊を結わう縁結び風鈴で賑わう。



□川越市立博物館

川越市立博物館は、川越城跡地にある。本丸御殿、二の丸、三の丸で構成され、二の丸跡が、川越市立博物館、川越市立美術館となっている。川越城には天守閣はなく（当時の取り決めで作ることができなかった）、三階建てと考えられる富士見櫓が天守閣の代わりをしていた。

博物館は、川越藩の城下町として発展してきた川越に関する資料の収集、公開を目的として1990年の3月1日に建設された建物である。館内には、当時の川越をイメージして造られた、蔵造りの町並みがある。蔵造りの町並みと



は、30 数棟の蔵造りの商家が軒を連ねている現代の商店街のようなものである。また、霧吹きのある井戸がある。ここから給水しているか調査できていないが、鯉が泳いでいる小池がある。館内には、説明員がいて、川越について詳しく知ることができる。

代表的な展示物：説明員のお話しによると、代表的な展示物は入り口に入ってすぐ目の前にある川越城復元模型である。中央には、銅鐘がつるされた櫓がある。川越藩主だった酒井忠勝（さかいただかつ）によって作られた「時の鐘」であり、江戸時代に街全体から見える仕組みになっている。蔵造りの町並み復元模型も原寸大であり当時と今の街を対応させる説明を受けた。（道幅は狭めた状態）町の発展情景が垣間見れる。また、川越城復元模型の横に江戸時代初期（家光）の屏風が2枚ある。その2枚には、家光が川越で、狩りをしたり、催し物をしたりする情景が描かれている。

□川越城本丸御殿

川越城の歴史：川越城は、扇谷上杉持朝（もちとも）が古河公方足利成氏（しげうじ）に対抗するため、長禄元年（1457）に家臣の太田道真（資清）・道灌（資長）父子に命じて築城したものです。当初の規模は、後の本丸・二の丸を合わせた程度と推定されています。

やがて川越城は、天文6年（1537）後北条氏の占拠するところとなりましたが、同15年（1546）川越城の奪回を図った上杉氏は後北条氏の奇襲に会い、大敗して群馬に逃れ、それ



以後、後北条氏の支配が決定的となりました。川越城を掌中に収めた後北条氏は、周辺の旧上杉氏所領を直轄領に組み込むとともに、城代として譜代の重臣大道寺氏を配置しました。

天正18年（1590）、豊臣秀吉の関東攻略に際し、川越城は前田利家に攻められて落城しました。やがて同年8月徳川家康が一族家臣を従えて関東に移るにおよび、重臣を重要な地に配して領国の安定を図りました。川越には酒井重忠が1万石をもって封じられ、ここに川越藩の基礎が成立しました。

寛永 16 年（1639）に藩主となった松平信綱は川越城の大幅な拡張・整備を行い、近世城郭の形態を整えることとなりました。即ち本丸、二の丸、三の丸等の各曲輪、四つの櫓、十二の門よりなり、総坪数は堀と土塁を除いて 4 万 6 千坪となりました。

その後も明治維新に至るまで、幕府の要職にある大名が置かれた川越城は、平成 18 年（2006）に[財団法人日本城郭協会](#)から「[日本 100 名城](#)」の選定を受けました。また平成 19 年（2007）には築城 550 年を迎え、市内各地でイベントが行われました。

本丸御殿の歴史：川越城本丸御殿の記録として、もっとも古いものとしては「江戸図屏風」（[国立歴史民俗博物館蔵](#)）に描かれた「川越城」部分の描写ということになります。「江戸図屏風」は 17 世紀後半に描かれた江戸とその周辺での 3 代将軍家光の事蹟を記したもので、その成立の経緯には諸説ありますが、江戸時代初期の様子を見るうえでは重要な資料です。

江戸図屏風の川越城は本丸と二の丸とされる部分が描かれており、朱塗りの社殿の三芳野神社と馬屋を隔てて向かい合う位置に白壁に囲まれた本丸御殿があり、その下に二の丸の建物群が描かれています。本丸御殿は正面に大きな門があり、9 棟以上の建物が配されています。屏風には鷹を腕に留ませた鷹匠の姿も見えることから、家光が川越周辺で鷹狩をした際に立寄った場面と考えることもできます。このことから、当時の本丸御殿は将軍が川越を来訪した際に滞泊するための「御成御殿」としての性格を示しており、城主の居所は二の丸の建物群であったとすることもできます。

江戸時代後期に成立した「新編武蔵風土記稿」においては、本丸に「今は家作なし」と記されています。家光没後、将軍家の川越来訪はほとんどなくなり、本丸御殿の御成御殿としての役目もなくなったためか、いつしか殿舎は解体され、「家作なし」つまり空き地になったと考えられます。

ところが、江戸時代末の弘化 3 年（1846）、城主の居所である二の丸御殿が火災によって焼失してしまいました。住居を失った城主は、新たな御殿の建造を空き地であった本丸に求めました。こうして嘉永元年（1848）、時の城主松平斉典（なりつね）によって本丸に新たな御殿が建てられたのです。当時は川越藩の歴史の中でも最大の石高（17 万石）を領していた時期であり、本丸御殿は 16 棟、1025 坪の規模を誇っていました。

明治維新を迎えると、川越城は次第に解体されていきましたが、大広間及び玄関部分だけは入間郡役所、煙草工場、中学校校舎などに使用されました。現存する建物は往時と比べ、敷地面積にして 8

分の1、建坪で6分の1の規模でしかありませんが、3間の大唐破風をはじめとする建物の各部分に武家の威容を感じ取ることができます。日本国内でも本丸御殿が現存している例はきわめてまれで、昭和42年（1967）に埼玉県の指定文化財になりました。

家老詰所は、明治維新後に福岡村（現ふじみ野市）にある星野家に払い下げられていたものを、昭和63年（1988）に復元移築したものです。江戸時代には現在の位置よりも西にあり、他の建物からは独立して土塀に囲まれていました。藩政を支えた家老の居室が残っていることは珍しく、本丸内の日常生活を知る上で貴重な建築です。御殿部分に続き、平成3年（1991）に県指定文化財に追加指定されました。

□三芳野神社

～童心に帰る参道”とおりゃんせ”の細道～

三芳野神社は、川越城の鎮守として寛永元年（1624）、後の城主酒井忠勝によって再建されたといわれています。

この天神様は、わらべ唄「とおりゃんせ」発祥の地といわれています。川越城内にあったため、一般の人の参詣はなかなか難しく、その様子が歌われていると伝えられています。



□川越城富士見櫓跡

川越城本丸御殿裏手に「富士見櫓跡」があります。

現在は櫓もなく、高台になっているのですが、川越城があった頃は、城の中央には太鼓櫓、東北の隅に虎櫓、本城の北に菱櫓、南西に富士見櫓の四つの櫓があった、ということでした。

高台にあった富士見櫓が天守閣の代わりで、敵からの攻撃や侵入を見張っていたのだそうです。

川越城本丸御殿の中に川越城富士見櫓模型が展示されていますので、ご覧頂くことができます。

富士見というからには、当時は富士山も見えていたのですが、現在はマンションや高層ビルなどで見ることはできません。

富士見櫓跡と同じ場所に川越城田曲輪門跡の石碑があり、山頂には御嶽神社が祀られています。



以上